

## 審査の結果の要旨

氏名 井筒 節

本研究は、(1) 国際的に使用され、多文化間で比較可能な QOL と精神保健に関する尺度のバングラデシュ語版を作成し、その信頼性・妥当性を確認し、(2) それらを用い、バングラデシュ・ダッカ市に暮らす青年の QOL・精神健康を、スラム地域と住宅地域の比較を中心に明らかにすると共に、(3) 彼らの精神健康に関連する要因を明らかにすることを目的とした。方法としては、ダッカ市内のランダムに選ばれた地域に住む 11 歳から 18 歳の青年について、住宅地域に住む男子 187 人 (平均年齢 14.61 歳、SD=2.10)、女子 137 人 (15.16、2.02)、スラム地域に住む男子 157 人 (13.76、2.07)、女子 121 人 (13.44、2.09)、更に臨床群として、精神科病院に入院もしくは通院中の男子 27 人 (17.00、1.36)、女子 14 人 (15.43、2.77) を対象に質問紙を用いたインタビュー調査を行った。質問紙は、The World Health Organization Quality of Life Assessment Instrument Bref (WHOQOL-BREF)、Self Reporting Questionnaire (SRQ)、Youth Self-Report (YSR) と人口統計学的データなどの質問からなり、2 名の専門家によりそれぞれ英語からバングラデシュ語に翻訳され、更に別の専門家がバックトランスレーションを行い作成した。身長、体重も測定し、BMI が算出された。更に、再テスト信頼性の確認のために、ランダムに選択された 38 名が初回インタビューから 1 週間後に再度同様のインタビューを受けた。これらについて、下記の結果を得ている。

1. 作成された尺度のバングラデシュ語版は、一定の信頼性・妥当性を有することが示された。
2. 人口統計学的データ、栄養状態を示す測定値、更には QOL 得点について、有意差がみられた項目すべてにおいて、住宅地域よりもスラム地域の青年の状態が悪かった。

3. 一方、精神健康に関する尺度については、差が見られた項目のうち、YSR の「行為障害」得点においてスラムの男子の状態が悪かった以外、すべての尺度において住宅地域の青年の得点が悪かった。重回帰分析の結果、精神健康に関する尺度得点は主に、女性であること、年齢が高いこと、社会的関係性に関する QOL が低いこと、環境に関する QOL が低いことと関連していた。

以上、本論文は、バングラデシュ・ダッカに住む青年の精神保健を初めて明らかにし、スラムにおける物理的環境や QOL の厳しさと、精神保健における地域、性別ごとの特異なパターンを明らかにした。特に、高年齢のスラムの男子における問題行動の増加や、住宅地に住む女子の不安・抑うつと同時に現れる攻撃性の存在などが明らかとなり、深刻な状況が推測された。本研究は、これまで未知に等しかった、バングラデシュ・ダッカに住む青年の精神保健について、スラムに暮らす青年も含め検討し、彼らに対する早急な精神保健的対応の必要性和、その際に地域差への注目と性差に敏感な対応が必要であることを示したことで重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。